

- 地域のモビリティ確保に関する住民からの要望・相談は、地域主体での交通サービス提供の仕組みづくりの契機として活かすことが重要。

知恵袋

住民の熱意を自治体職員が真摯に受け止めたことが、その後の展開につながる

⇒ **バス路線の廃止をきっかけに住民が自らコミュニティバスを運行[三重県四日市市]**

- ・市の公共交通担当者は、平成14年当時、バス路線が撤退する地域の住民が対策の要望に来たものの、当時の市の財政状況は厳しく、バス路線廃止への対応は難しいと伝えていた。
- ・担当者は、地域のモビリティ確保の重要性は認識していたが、これまで赤字路線を公費で維持しても、利用者の減少に歯止めがかからず、従来の手法に限界を感じていた。
- ・そうしたなか、ある人物が、沿線企業の協力を得ながら、地域住民が自分たちでバスを運行するというアイデアを持ち込んできた。
- ・担当者は、ちょうど良いタイミングであると捉え、即座にこの人物を地域住民に紹介した。また、撤退する交通事業者も実はバスを維持したいと考えていた。
- ・市の担当者が、問題意識を持ち、関係者の思惑をつなぐきっかけをつくったことが、地域住民主体の運行による生活バスの実現につながった。

⇒ **地域住民が自らの負担で運行するコミュニティバス[兵庫県淡路市]**

- ・長沢地域では、基本的に自助努力でコミュニティバスを運行することを前提に、この取組を進めることについての相談を行政に行った。
- ・行政も、そうした地域主体の取組を応援してくれることとなり、車両の無償貸与という支援を行なった。

知恵袋

住民組織、専門家、事業者をつなぐコーディネーターを見つけられたことが運行実現に向けての第一歩となった

⇒ **バスの運行組織の立ち上げから運営まで住民主導で実施[京都市]**

- ・京都市の醍醐地域では、住民が主体となってコミュニティバスの検討を進めていたが、ルート設定や需要予測などは、住民たちの力だけでは難しかった。しかし、交通に関する専門知識を持つ学識者と住民組織を結びつけたコーディネーターが存在したことにより、具体化に向けた検討が進むこととなった。
- ・また、検討が進んだ段階では、運行を担う交通事業者を探すことも課題になったが、この点においてもコーディネーターが大きな役割を果たした。
- ・このように、専門家や事業者をつなぐコーディネーターの存在が、住民の熱意を具現化していくことに大きく寄与している。

知恵袋

地域づくりに積極的な地域は、地域のモビリティ確保でも自主性を発揮

⇒ **行政のサポートを受けつつ住民主導によりデマンド交通を実現【山形市】**

- ・山形市の大郷明治地区では、市営の地域交流バスのサービス水準では不十分と考え、自分たちでジャンボタクシーによるデマンド交通の運行を実現したが、その背景には、当該地域がかつて独立した村であったことや、地域の個性的な風景づくりなど、地域で頑張る下地があった。

⇒ **地域住民が自らの負担で運行するコミュニティバス【兵庫県淡路市】**

- ・淡路市長沢地区では、住民有志の発意で、各世帯が年間 1 万円を負担して、コミュニティバスを運行しているが、その背景には、様々な地域活性化活動を住民全体で取り組むなど、地域にとって必要なことは、住民全体で支えていくという気風があった。

知恵袋

熱意ある住民のリーダーシップとその熱意を受け止める行政職員の存在が、継続的な事業運営の下地となっている

⇒ **住民・行政・事業者の3者それぞれがリスクを負担することで、継続的なバス運行を実現【新潟市】**

- ・路線バスの廃止届出を受け、危機感を募らせた住民が、「自分たちで何とかバスを走らせたい」という思いのもと、リーダーシップを発揮して、意識の高い住民を巻き込んでいった。
- ・また、小さい町ゆえ、行政職員と住民が顔見知りであり、住民の熱意に対して、行政職員が、責任をもって応えようと努力をしていた。
- ・熱意のある住民とそれを支える行政職員が一緒になって取組を行うことで、継続的な事業運営を進める下地が出来上がった。。